

会議録（要点筆記）

会 議 名	令和5年度第2回米原市学びあいステーション運営審議会
開 催 日 時	令和6年3月7日（木）午後7時00分から午後8時30分まで
開 催 場 所	近江学びあいステーション 研修室2-3
出席者および欠席者	出席者：富川 拓 会長、吉田 徹 委員、廣瀬真人 委員、 武島由知 委員、寺倉 悟 委員、津田千恵子 委員、 西田すづ枝 委員、杉山美好 委員、庚 勝美 委員、 川崎武和 委員（10人） 事務局：平山課長、中村課長補佐、久保主任、吉田主事 施設管理者：伊吹薬草の里文化センター 新木 豊 館長代理 山東学びあいステーション 横田 仁司 館長 米原学びあいステーション 山口 江美子 館長 近江学びあいステーション 山田 裕美 館長 欠席者：安田恵子 委員
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度学びあいステーション事業実績について ・令和5年度利用者アンケートの結果について
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての学びあいステーションから具体的な取組や事業実施に係る課題を説明いただき、各委員と施設の現状や今後の展望について情報共有を図ることができた。 ・今年度の利用者アンケートの結果をもとに意見交換を行い、高齢化問題や若年層、子どもの参加、今後のアンケートの実施方法について意見が出された。 ・事務局および学びあいステーションで随時意見の共有を行い、令和6年度以降の事業実施につなげていく。
審 議 経 過 (要 約 筆 記)	<p>1 あいさつ</p> <p>2 事業報告について</p> <p>① 前回審議会の振り返り 事務局から説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館から学びあいステーションに変わったことにより運用の幅が広がり、営利目的の貸館や物販が可能になったことをお伝えした。 ・また、委員の皆様から、審議会の運営方法や広報、学びあいステーションの運営関係など様々な意見をいただいたことに加え、利用者アンケートの実施について承諾いただいた。 <p>② 令和5年度学びあいステーション事業実績紹介 事業実績について、事務局および施設管理者から説明を行った。</p>

○伊吹薬草の里文化センター（ジョイいぶき）

【講座】センゴクセミナー、薬草美活セミナー、切絵教室

【イベント】クリスマスマーケット、新春！かるた・百人一首&もちつき大会、森麻季&小柳ゆきスペシャルライブ

【ロビー事業】伊吹盆梅展、伊吹小学校総合学習発表展示

- ・クリスマスマーケットは、施設と地域の有志の実行委員会制で、地元の方の意見を取り入れながら企画、開催をした。天候の関係で屋内開催となったが、約1,500人の方にお越しいただけた。

○山東学びあいステーション（キラリさんとう）

【講座】健康セミナー、終活セミナー、美術館プラス、お城探訪プラス、通学館（通学合宿）

【イベント】山東文化祭、Xmasコンサート、ひなまつり

【ロビー事業】展示物、コーヒーメーカー、キラリショップ

- ・Xmasコンサートでは、学生と社会人のコラボを行った。社会人が学生にレクチャーしている光景を見て、このような動きが部活動の地域移行につながっていくと感じた。
- ・山東の運営審議会で、子ども向けのイベントを行うよう意見をいただいたので、ひなまつりイベントを開催した。着物の着付けやメイク体験、ニュースポーツなど、普段体験できないような取組を実施し、約500人の方にお越しいただき、大変賑わった。

○米原学びあいステーション（みらいく米原）

【講座】きもの着付け教室、認知症予防講座、箏教室、外国語教室、ロボットプログラミング、スマートフォン講座

【イベント】るあなマルシェ、懐かしのレコード盤

【ロビー事業】サークル成果発表、物品販売（福祉施設支援）

- ・利用者に気軽に参加いただけるよう、認知症講座、スマートフォン講座、懐かしのレコード盤は無料で開催している。
- ・毎年度、パンフレットを全戸配布しているが、少しでも長く家庭に置いていただくため、カレンダー式にして、施設の予定と自分の予定を比べられるように工夫している。
- ・令和6年度の講座に高島市から2名の申込があるなど、市外からの利用も多い。

○近江学びあいステーション（こんせ近江）

【講座】英会話教室、ダンス教室、サッカー教室、育脳リトミック教室、フラワー教室、スケッチ教室、パン教室 など

【イベント】めぐり市、お笑いライブ26、ハロウィンイベント、サンタクロースが家にやってくる！

【ロビー事業】作品展・企画展、野菜販売、フリマ・オークションサイト出品代行サービス

- ・文化教室、スポーツ教室のすべてに施設職員が講師として参加し、地域の方とのつながりを作っている。
- ・美大出身の職員がおり、スケッチ教室や、4コマ漫画作り（施設で販売している野菜を使ったレシピを紹介する）等で活躍している。
- ・吉本NSC26期生の職員もおり、26期生のメンバーを集めたお笑いライブを開催し、600人以上の方に参加いただいた。
- ・メルカリなどのフリマアプリへの出品代行については、本人の不要物がお金になるということで、非常に喜んでいただいている。

会長）施設に愛着を持っている方が非常に多いという印象に加え、多彩な職員が多彩な講座を行っていることに魅力を感じる。

委員）施設がそれぞれ特性を活かして事業を実施されており、同じような内容がないのが素晴らしい。

事業実施する上で困っていることはあるか。

伊吹）盆梅展の出品者が高齢化している。他のイベント等を組み合わせ盛上げてはいるが、今後のサポートや事業継続が課題である。

山東）文化協会のサークル数が減少している。高齢化も進み、力仕事も困難になってきている。

また、施設の3階の利用が少ない。展示品を3階に設置するなど工夫しているが、施設の利用者数を見ても、他施設より大幅に少ない。

米原）他施設と同様、文化サークルの減少、高齢化が進んでいる。講座からサークル活動を立ち上げていただくため、活動紹介についての冊子を作ったりしているが、利用者の方は、事務作業や当番、役職を務めるのに気が向かないようである。

また、コロナ明けにも関わらず、若年層や子どもの利用が増

えてこない。

高齢の利用者の方で意欲がある方も、免許返納の問題がある。

近江) 当施設も文化サークルの減少が課題だが、2団体が講座からサークル化するなど、地域の人材を確保している。

生きがいでもあるので、やめたくない方を救ってあげたいという思いのもと、文化・スポーツともに事業継続のサポートとして、企画展やイベントの開催、ボランティアの確保に取り組んでいる。

3 利用者アンケートの結果について

令和5年度アンケート結果を配布し、事務局から説明を行った。

- ・11月～12月にアンケートを行い、337件の回答を得た。
- ・利用者は約8割が女性で、60歳以上の割合が6割を超える。
- ・米原学びあいステーションは市外、伊吹学びあいステーションは県外の方の利用率が高い。
- ・チラシ、広報まいばらなどの紙媒体に加え、来館時、口コミの啓発効果が高い。
- ・周知について、SNSと回答した方が0人であった。学びあいステーション公式SNSや市公式SNSでのさらなる発信や、シニア層へのデジタル推進等が今後必要であると考えられる。
- ・一人での参加者が多いため、家庭内での情報共有により利用者を増やす余地が十分にある。親子や家族全員で参加できるイベント等の企画・開催が効果的だと考えられる。
- ・貸館での営利事業実施が可能なことを知っている方が多かったことを踏まえ、利用者の声を活かした講師や企業の招聘、連携が効果的だと考えられる。また、商工会等との連携のほか、各種事業・イベントの学びあいステーションでの開催、学生との協働が効果的であると考えられる。

※2年に1回行われる市民意識調査に、学びあいステーションの項目を設置したところ、利用したことがある人が3割、利用したことがない人が約7割という回答であった。

次回の市民意識調査では、利用している方については利用内容、利用していない方についてはその理由等を掘り下げていけるよう検討している。

会長) アンケートは若年層の回答数が少ないが、本日の会場の屋外で沢山の子どもたちがサッカーをしているところを見ると、若年層の利用は予想よりも多いと思う。アンケートの取り方次第で違った結果も出てくるのではないか。

委員) 市外、県外の利用者はどのように情報を得ているのか。

伊吹) 大きい講座やイベントに来館された際に知られたり、コンサートでは、出演者のウェブサイトを自ら確認して情報を得ておられることが多い。

会長) 情報が駆けめぐる時代であり、どんな方法であれ、米原の名前が広まるのは良いことである。

伊吹) 隣市や隣県の状況をほぼ知らないの、情報を得ていくことも重要である。

会長) 他の自治体との相乗効果が生まれるとよい。

委員) アンケートについて、施設による回答数のばらつきなどがあるが、設置や回答について、工夫されていることはあるか。

米原) 今回は、サークル団体および講座参加者に2枚ずつ用紙を配り、満遍なく回答を集計した。

委員) 事務局からサンプリングの仕方は指定したのか。

事務局) 1か月程度の期間で可能な限り広く回答いただきたいということで依頼している。

施設運営に支障がない範囲で実施いただいているが、イベント等の時期と重なった施設もあり、回答数にばらつきが出た部分があるので、最低限の回答数や実施時期、期間については、検討の余地がある。

また、来館者向けのアンケートを2年間行い、傾向等はだまか掴めたと感じており、今後は未利用者向けのアンケートおよびアプローチを考えていく必要がある。

委員) 事業の継続性の観点から、リピーターがどれくらいいるのか調査してみる等、アンケートを工夫してもらいたい。

4 意見交換

委員) 冬や天候が悪い時に、子どもが集まって走り回れるような遊べる場所が欲しい。場所があるだけで、子どもたちは自然と集まって遊ぶと思う。

また、ワークショップのような若年層が行きやすい親子対象のイベントを企画いただけるとありがたい。

